恋愛・・・超短編

眠華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋愛・・・超短編

【Nコード】

N18170

【作者名】

眠華

【あらすじ】

一話完結の恋愛物です。

甘いものからシリアスなものまで書きたいと思っています。

両思い1（前書き）

どうも。はじめまして眠華です。

この小説は、わたくし眠華が自己満足的な感じで書いたものです。

一話で完結？ ツていう感じです。

楽しんでいただけると幸いです。

実在の人物とは一切関係ありません。

両思い 1

「えっ?!」

私は突然のことに声を上げてしまった。
蓮に後ろから抱き締められたのだ。

「好きだった・・・ホントに・・・いつもお前の近くに行かなかったのは、
美咲が嫌いだったからじゃない。
お前を見るだけで心を乱されているオレが、情けなかったんだ・・・」

辛そうに、けれど私から目を逸らさず話す蓮。
本気が伝わってきた。

私は、後ろから抱き締め続ける蓮の手から逃れた。

次の瞬間、
蓮に口付ける。

触れるだけの軽いキス・・・。
体を離そうと思い、一歩後ろに下がろうとした時今度は蓮から私に口付けた。
蓮は、戸惑い少し唇を開いた私の口の中にするっと舌を滑り込ませ
てくる。

「んっふッ・・・アッ・・・んっ」

初めての感覚に変な声を上げてしまい、顔が真っ赤になったのが分かった。

息苦しくなるほど長い口付けだった。

「ふふっ 顔が真っ赤になってる。やっぱり美咲はかわいいね。」

蓮は困ったように言った。

「ますます好きになる。」

「っっっ 私だってっ蓮のことっっ。」

「ちゃんと言ってくれなきゃわかんないよ?」

「っっっ好き、なのっ」

「オレも大好きだよ」

蓮は私を包むように抱き締めた。

両思い1（後書き）

不定期連載です。

わたしが書いた小説で気に入ったものがあれば、感想などに投稿してください。

きまぐれで続きを投稿するかもしれません。

なにとぞよろしく願います

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1817o/>

恋愛・・・超短編

2010年10月9日16時11分発行